



どうたクッキーをつくる参加者

おいしい銅鐸できるかな

久々利公民館で2月24日、食べる銅鐸「どうたクッキー」を作ってお茶会を行いました。あまり銅鐸を知らなかった人たちにも興味を持ってもらおうと、展示企画の一環で行ったもので、親子連れなど20人が参加しました。

生地を銅鐸の型で抜き、砂糖で模様を描くと、自分だけのクッキーが完成。参加者はカラフルな銅鐸を制作し、おいしくいただきました。

環境への決意を新たに

2月25日に、広見公民館ゆとりピアで環境フェスタを開催しました。「未来へつなごう みんなで環境まちづくり」をテーマに、市内の小中学生による環境学習の成果発表会などさまざまな催しを行いました。

今年は、環境に関して自分たちができる身近なことを宣言する大声コンテストを初開催。参加者たちは「エコバッグを使おう」や「水を大切に」など、普段心掛けていることを力いっぱい叫びました。



力強く宣言する参加者



バドミントンの技術ポイントを教える井上さん

バドミントン大好き

3月4日に、B & G海洋センターで小学生以上を対象にバドミントン教室が開催されました。市の体育施設の管理を行っているミズノグループが行ったもので、実業団一部リーグでも活躍した井上静華さんを講師に迎えました。

子どもたちは基本的な動作から、力強くスマッシュを打つコツなど実践的なことを教わり、夢中になってラケットを振っていました。

巨大珪化木をお披露目

東明小学校にある岩石標本を展示する施設・岩石園で、3月12日にリニューアル除幕式を行いました。

平成28年6月に二野地内で見つかった、長さ推定15メートル以上の珪化木の一部移設に伴うもので、岩石標本に加えて貴重な化石を見られるようになります。この珪化木は約1800万年前のニレ科の落葉広葉樹。直径約2メートル、長さが4メートルの大きさで、今後は児童の学習に活用していきます。



珪化木を見学する児童

花フェスタを駆け抜けろ

花フェスタ記念公園で、2月18日に可児シティマラソンが開催され、出場選手2,018人とボランティア429人を含む全3,683人が集まりました。

マラソン参加者はタイムレースやジョギングなど全14部門に分かれ、楽しみながら花フェスタを駆け抜けました。ジョギングの仮装の部では、人気キャラクターやボディコン風などユニークな衣装をまとったランナーが登場。仮装したキャラクターになりきって走る姿や家族で手を取り合って走る姿がたくさん見られました。

また当日は学生ボランティアを含むスタッフも活躍。受け付けや会場整備など運営を支え、一緒に大会を盛り上げました。



ジョギング(仮装部門)の様子



市長も参加しました



真剣に学ぶ生徒たち

安心して買い物をするために

2月9日と22日に、東可児中学校と市の消費生活相談員が協働で授業を行いました。実際の相談事例をもとに、契約に関する基礎知識や身近なトラブルを学び、消費者市民としての行動を考えました。

生徒たちからは、「普段の買い物から注意することがたくさんあると分かった」「自分が被害に遭わなくても、他の人が被害に遭わないように働き掛けたい」などの声が聞かれました。

気ままに和を楽しもう

2月15日から3月15日にかけて、Lポート可児で「気まま会」による作品展が開催されました。同会は下切の永井千早さんら3人を中心に、10年前から活動が続いている団体。みんなで会話や食事を楽しみながら和雑貨を作り、時間も年齢も忘れて日々生き生きと活動をしています。期間中には約600人が来場。つるし雛やちりめん細工、和小物などたくさんのかわいらしい作品に、心を和ませていました。



作品展の様子